

分野： (1) 小児・成人ぜん息に関する調査研究
③ 重症ぜん息患者の増悪予防策

(1)-③

委託業務名：表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析

調査研究代表者氏名：長瀬 洋之

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	4人	2人	0人	0人	0人	4.67
(3) 研究計画の妥当性	5人	1人	0人	0人	0人	4.83
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						4.75
(6) 総合評価(第2評価)	5人	1人	0人	0人	0人	4.83
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						4.78

2 記述評価
<ul style="list-style-type: none">• 一般的に興味深い成績が蓄積されつつある。• Type2lowにおける若年者と高齢者の比較表が作れないか。• Glectin-10有用性をさらに確立してもらいたい。• IgEとの関連をもう少し検討していただきたい。 <p>• いわゆるtranslational researchとして内容のある研究を異なる切り口で進めており、次年度に向けてさらに発展することが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none">• 順調に進行している研究課題である。• Ga10が好酸球性炎症の程度を示せる可能性が述べられているが、抗IL-5抗体使用例でコントロール良好群と不良群でGa10レベルに差があることが示されれば興味深い。 <p>• HRCT所見そのものについて、再現性や経時変化についての検討が可能であれば、検討した上で血清データとの関連をすすめるのはどうですか。</p> <ul style="list-style-type: none">• 重要な研究である。 <p>• Type 2-low ぜん息の多様性などに焦点を当て、着実な成果を積み重ねている。</p> <p>• 計画に基づいて着実に研究が進められている。残り1年でさらに有益な知見を収集されることを期待する。</p>